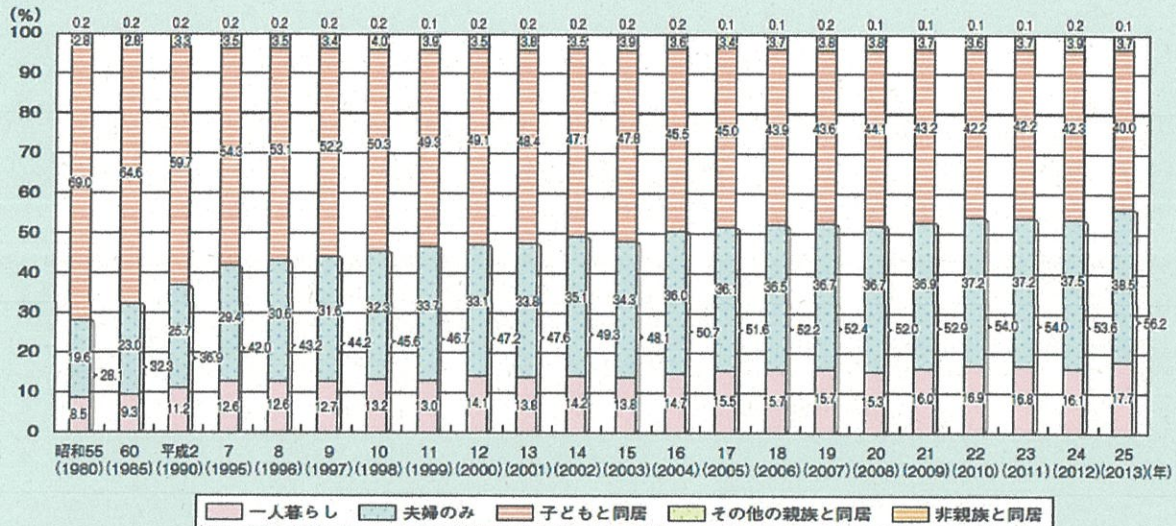


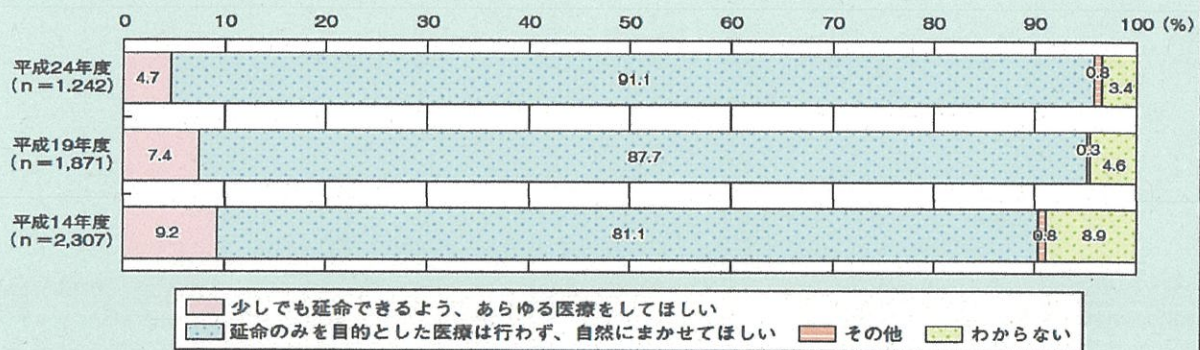
(平成27年高齢社会白書(内閣府)抜粋)

図1-2-1-2 家族形態別にみた高齢者の割合



資料：昭和60年以前は厚生省「厚生行政基礎調査」、昭和61年以降は厚生労働省「国民生活基礎調査」  
 (注1)「一人暮らし」とは、上記調査における「単独世帯」のことを指す。  
 (注2)平成7年の数値は兵庫県を除いたもの、平成23年の数値は岩手県、宮城県及び福島県を除いたもの、平成24年の数値は福島県を除いたものである。

図1-2-3-20 延命治療に対する考え方



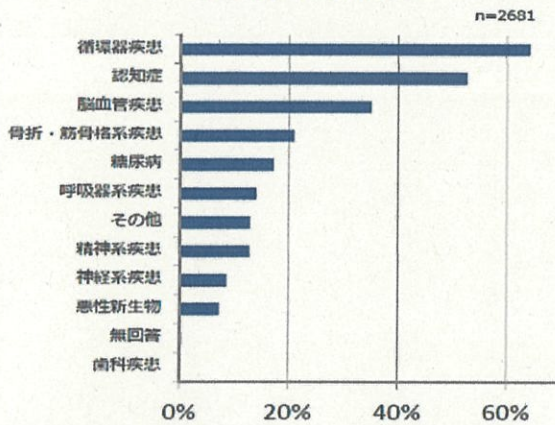
資料：内閣府「高齢者の健康に関する意識調査」(平成24年)  
 (注1)対象は、全国65歳以上の男女  
 (注2)質問は次のとおり。「万一、あなたの病気が治る見込みがなく、死期が近くなった場合、延命のための医療を受けることについてどう思いますか。この中から1つだけお答えください。」

## 訪問診療の対象患者について ＜患者の疾患＞

中医協 総-6  
27. 2. 18

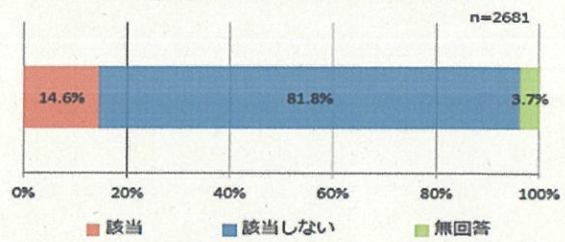
- 在宅患者の基礎疾患は多様であり、特に循環器疾患・認知症・脳血管疾患を抱える患者の割合が大きい。
- 別表7に規定する疾病等に該当する患者は全体の15%程度である。

＜疾患別の患者割合＞



※患者票のデータを、日計表における同一建物/非同ー建物患者の人数にあわせて重み付けして集計  
出典：平成26年度検証部会調査（在宅医療）

＜別表7に規定する疾患への該当割合＞



別表7に規定する疾病

・末期の悪性腫瘍	・多発性硬化症	・重症筋無力症
・スモン	・筋萎縮性側索硬化症	・脊髄小脳変性症
・ハンチントン病	・進行性筋ジストロフィー症	・パーキンソン病関連疾患
・多系統萎縮症	・プリオン病	・亜急性硬化性全脳炎
・ライソゾーム病	・副腎白質ジストロフィー	・脊髄性筋萎縮症
・球脊髄性筋萎縮症	・慢性炎症性脱髄性多発神経炎	・後天性免疫不全症候群
・頭頸損傷	・人工呼吸器を使用している状態	

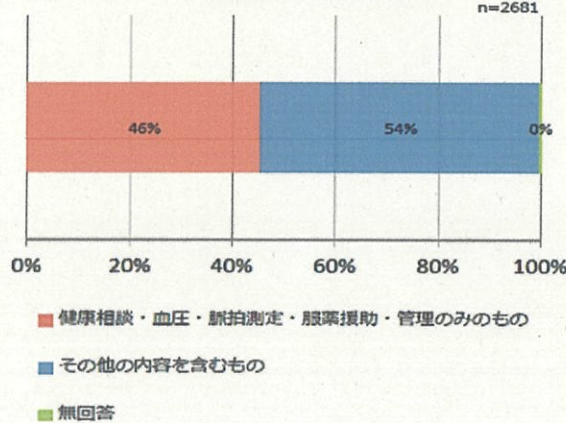
6

## 患者の診療状況について ＜提供している医療内容＞

中医協 総-6  
27. 2. 18

- 在宅患者全体の45%程度は調査項目のうち「健康相談」「血圧・脈拍の測定」「服薬援助・管理」のみに該当する一方、残りの55%は「点滴・中心静脈栄養・注射（約11%）」等何らかの処置・管理等を実施されている。

＜提供している医療内容＞



※患者票のデータを、日計表における同一建物/非同ー建物患者の人数にあわせて重み付けして集計  
出典：平成26年度検証部会調査（在宅医療）

＜提供している医療内容（内訳）＞

